



日造協ニュース

2018.1月号
通巻 第526号
Japan Landscape Contractors Association NEWS

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012

本号の主な内容

新春特別号

造園の魅力を発信！

全国造園フェスティバルの活用



大山祇神社のクスノキ群 「乎知命御手植えの楠」

瀬戸内海の中央、愛媛県今治市大三島町宮浦にある大山祇神社（おおやまづみじんじや）の境内には、全域にわたって大小約200本もの楠木が群生し、そのうち38本が日本最古の原始林社叢「大山祇神社のクスノキ群」として国の天然記念物に指定されています。（昭和26年6月9日指定）その中でも境内のほぼ中央、神門前にそびえる「乎知命（おちのみこと、小千命とも表記）御手植えの楠」は、根周り20m、幹周り11m、樹高16mにも達するこの神社最大の楠木です。この神社は神武天皇東征の折、天照大神の兄神、大山積大神の子孫にあたる小千命（おちのみこと）が瀬戸内海の治安と航海安全を祈願して大山積大神を祀ったのが起こりとされ、その御手植えと伝えられるこの楠木は、樹齢2600年と推定されています。古来御神木として崇められ、老木で幹や根元の枯死により空洞となった独特の樹形はその威厳を感じさせます。息を止めてこの楠を3周すると願い事が叶うとか、一緒に写真を撮ると長生きできるなどと言われ、多くの参拝客が訪れるパワースポットとなっています。

【愛媛県支部】

謹賀新年

一般社団法人日本造園建設業協会

会長 藤巻 司郎



造園力を発揮できる場の創造・拡大を目指す

平成三十年の年頭にあたり

新年明けましておめでとうございませう。

皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。この一年が、皆様にとつて、素晴らしい年になりますよう、心から祈念しております。また造園建設業界が、ますます飛躍することを大いに期待しております。

さて、わが国の社会・経済状況は、今、大きな転換期を迎えております。安倍政権が進めるアベノミクス「改革の矢」により、この五年間、経済再生に向けた様々な取組が実施されてきました。今後の最大の課題である少子高齢化の克服に向けて、「生産性革命」、「人づくり革命」、女性が輝く社会、お年寄りも若者も、誰もが生きがいを感じられる「一億総活躍社会」が本格的に動き始めました。

安定した政治基盤のもとで、経済の好循環の波が全国隅々に行き渡るまでに好転してほしい、と強く願っております。

造園業界を取巻く状況は、「担い手3法」を契機に、これまでの日造協活動が実を結び、労務費単価の改善やダンピング対策の強化等の措置が着実に講じられるようになり、ようやく経営環境が改善しつつあると感じて

おります。

先行きを見通すことのできる安定した事業量の確保に向けた一層の取組が何よりも望まれます。併せて、造園業界の持続的な発展に向けて、培ってきた「造園力」を多面的に発揮できる場や機会の創造・拡大を目指す必要があります。

また、造園業界を支える担い手の中長期的な育成・確保に向けて、業態や技術面の特性を踏まえ、他の業種分野にはない独自の多面的な取組の展開・強化も図らねばなりません。

さらには、将来に目を転じ、災害時における復旧・復興支援活動の展開、都市公園や道路緑地などの整備・管理技術の向上をはじめ、観光・地域創生や海外日本庭園の保全・再生など新たな政策動向に対応した戦略的展開も求められます。

造園業界に身を置く者や入職を希望する若者達が、やりがいを感じ、誇りを持つる明るい未来の魅力ある環境づくりに、皆様とともに取組んでいきたいと考えております。

次代の日造協を担う方々に円滑にバトンタッチできる体制づくりにも意を注いで参ります。皆様のご指導、ご協力、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

新年号では、昨年新春座談会のテーマにした「造園力」がまだまだ知られていない現状と、担い手不足を始め、「造園の魅力」が伝わっていないことにも一因があるのではと考え、具体的な発信の場として、「全国造園フェスティバル」が活用できるのではないかと、造園フェスティバル推進部会の方々を中心に、施工と指定管理など、様々な貴重なご意見をいただきました。その概要を紹介します。

2018年 新春 座談会

造園の魅力を発信!

座談会出席者

- 桑原 宣基 氏 湘南造園(株) (造園フェスティバル推進部会委員)
酒井 一江 氏 (株)淡窓庵 (女性活躍推進部会長)
林 和人 氏 林造園土木(株) (新規制度等部会委員)
細田 美樹 氏 (株)北海道造園コンサルタント (北海道総支部副総支部長)
丸山 賢史 氏 (株)日比谷アメニス (造園フェスティバル推進部会委員)
渡部 敦 氏 庄内園芸緑化(株) (戦略立案部会委員)
(司会) 関根 武 氏 内山緑地建設(株) (造園フェスティバル推進部会長)
オブザーバー: 藤巻 司郎 (一社) 日本造園建設業協会 会長
林 輝幸 (一社) 日本造園建設業協会 副会長、総務委員長
正本 大 (一社) 日本造園建設業協会 業務執行理事、事業委員長
成家 岳 (一社) 日本造園建設業協会 広報活動部会長

「造園の魅力」 造園業界との出会い

関根 今回のテーマは、「造園の魅力を発信! 全国造園フェスティバルの活用」です。最近の座談会は、「造園の魅力」「造園業界の未来」を話題にしていますが、より現実的に「全国造園フェスティバル」が指名されたとのことですので具体的にご意見が得られればと思います。

まずは、自己紹介を兼ねて、造園の魅力という点から、造園業に入ったきっかけなどを伺いたいと思います。

丸山 運動部の活動に一生懸命で、最後のリーグ戦前に就職も考えないと思っていたところ、アルバイト先の日比谷花壇の店長が「うちには造園会社もあるよ」と紹介してくれて、農大の造園から施工会社は自然な流れでもあったので、日比谷花壇造園土木、現在の日比谷アメニスだけ試験を受けて、現在に至っています。

生まれは元浅草で、まさに映画の「三丁目の夕日」の世界。家の前の道路であそび、広い所となると神社でした。

3時頃におでん屋さんを通りますが、小遣いではジャガイモしか買えず、がんもやつみれは今も憧れ(笑)。そんな朝には納豆売も来る路地で育ちました。

細田 美樹という名前が女性と思う方も多いですが、父が北海道庁の林業職で、美しい樹になるように名付けられ、農大を出て、王子造林、現在の王子木材緑化に63歳までおり、林業、造園、木材を担当し、一番長かったのが造園で、5年前に今の会社へ呼んでいただき、名前にちなんだ仕事一筋です。社名はコンサルタントですが、純粋な造園施工会社です。日造協には前の会社の時、事業委員会に所属し、直接の担当



細田 美樹 氏

ではありませんでしたが、フェスティバルの話も聞きました。現在は、北海道総支部の副総支部長として、会議の席、実際の催事と、間接・直接、フェスティバルに関わっています。

渡部 山形の庄内園芸緑化(株)で二代目として会社を継いでいます。自宅を出ると隣に会社がありその先の公園で遊び、父や母、従業員の方々と一緒に生活しているような感じで、あまり疑問を感じず農大の造園に入りました。一時は迷いもありましたが、『建設業の中で唯一生き物を扱い、欧米では医者と同じくらい市民に尊敬されているんだから、造園に誇りをもちなさい』という恩師の言葉を素直に受け止め、他社で勉強し、実家に戻って18年になります。

酒井 淡窓庵という造園コンサルタントで、お集まりの皆さんとちょっと違うかもしれませんが、私も農大昭和48年卒です。どこかに就職を考えた時、造園コンサルはいまいちピンときませんでした。その時に黒川紀章さんの事務所がニュータウンの設計を手がけていた時期で「現役技術者求む」と新聞広告を出しておられ、行ってみると部長さんが「うちは、新卒をとって教えているような暇はないから」と言われましたが、むりやり経歴などを置いて帰りました。黒川さんの面接を受けた結果、その時の募集で採用されたのは私一人でした。いじめに似た厳しい思いもしましたが、社内出張も女子で初めてという時代でした。

私は、山口県岩国の出身で、オブザーバーとしていらっしゃる正本さんのお父さんが桜守をしてくださり、今は正本さんが継いでいらっしゃる錦帯橋の側で育ちました。これが原風景です。錦帯橋に雪が降ると鉄板に乗って滑ることや、今は山にお城が復元されましたが、当時は何もなく、鬱蒼とした森でした。山や錦帯橋の架かる錦川で遊び、やんちゃな子ども時代を過ごしました。その風景が造園の原点かと思っています。

林 千葉県旭市の生まれで、田んぼの中に松林と未舗装の道路があり、時代劇にも出てきそうな環境で育ち、平成6年の入社以来、ほぼ現場一筋でやってきて、近年、指定管理にも携わっています。

私も父の会社を継ぐ二代目です。桑原 茅ヶ崎で生まれ育ち、地元の東海大

学の文学部で広報を学んでいました。バブル真っ只中で、広告、新聞、テレビなどのマスコミに憧れていました。しかし、友達に誘われた造園のアルバイトが面白く、バイト三昧でした。当時は、仲間の中で1番財布が厚かったです。(笑)

今考えると二次下請けくらいだったと思いますが、箱根の方の国道管理で、雨が降ってきたりすると、午前中で切り上げ、「日帰り温泉に入っちゃうか」などアットホームで、楽しく過ごしました。

就職は、広告代理店と湘南造園から内定をもらい、選択にとっても悩みました。マスコミに対する漠然とした憧れより、現場が好きで、現場監督になりたい、公園を造りたいと、造園を選びました。

入社2年目くらいで、「酒づきあいもいいし、営業をやってみないか」と、カバン

持ちからスタートし、現在まで20年近く営業畑一筋です。

関根 生まれも育ちも葛飾柴又で、下町だと思われていますが、江戸川の対岸は千葉の市川で野菊の墓の舞台。緩やかな土手に松林があるのどかな風景でした。

しかし、高校の頃は公害がひどく、通学電車で窓をあけると荒川や隅田川は黒く悪臭が漂い、空は灰色でした。カレンダーで青空が広がる外国の街を見た時、こんなに美しい場所があるのかと驚きました。

どうしたらそんな街ができるのか。インターネットで簡単に調べられる時代ではなく、本屋さんには造園の本が並んでいないので、造園にたどり着くまでには、いろいろありましたが、造園という学問を知り、明大を出て現在に至っています。

これまでのフェスティバルを振り返って

関根 全国造園フェスティバルの概要は、日造協のホームページに開催概要やこれまでの開催結果などがあるので、ご存じない方は、この座談会と合わせて、ぜひ見ていただきたいと思います。実施して感じたことをお聞かせください。



丸山 賢史 氏

丸山 12年前の第1回から、自社の指定管理をしている公園や東京都支部での取り組みに参加しています。

1回目は11月初めでとてもいい天気でしたが、その後は3分の2が雨。15年位前までは、天気が安定していると高速道路の集中工事も10月に行われていましたが、現在は、気候も変わって、昨年は2度も台風に見舞われました。

このように天気に左右されるフェスティバルですが、地元のケーブルテレビが取材に来てくれたり、雨でも楽しみに来てくれる方々があり、造園のPRにもつながっているといます。

また、社員の交流の機会にもなっています。これまで長く、指定管理をしている大井中央海浜公園で実施していましたが、一昨年から、指定管理を行う公園で、順々に開催することにし、昨年は猿江恩賜公園で行い、台風の中でしたが、地元タクシー会社の方々も雨合羽持参で、球根を植え、悪天候だったからこそ、より連帯感が高まり、今後の管理にもつながってくると思います。

フェスティバルというと華やかなイメー

ジもありますが、準備などを含めると地味で、継続性が欠かせない取り組みだと思っています。一箇所ですともいいですが、人・財にも限りがあるので、場所を変えながら、種を順に蒔いていこうとの思いで取り組んでいます。

細田 北海道では、当初の第1回、2回と函館と札幌の2箇所で開催し、2008年から国営滝野すずらん丘陵公園内に場所を借りて、北海道総支部の主催で、10月では寒いので、8月に実施しています。

最初の頃のことは、直接知りませんが、当初は日造協本部からいただいたポスターの掲示や花の種の配布を「全国造園フェスティバル」の趣旨に沿って実施したのだと思います。そして、せっかくやるのだから何か企画をと、環境イベントを専門にされている方に企画を依頼し、ラベンダーを包んだポプリや葉っぱのスタンプ、ミニチュア盆栽、松ぼっくりペンダントなど、親子連れで大盛況、参加者の皆さんに喜んでもらっています。

しかし、「全国造園フェスティバル」として、日造協が意図しているものなのか、疑問もあります。造園の仕事を示したポスターを貼り、名入の花の種も差し上げていますが、その効果はどうか。

今年から国営公園が共催になり、公園のお手伝いという新たな企画も実施しましたが、この企画は新聞などにも事前に掲載されましたが参加者ナシでした。こうしたことも踏まえて、国営公園での開催10年を契機に、根本的に見直そうと考えているところです。

酒井 私は日造協では女性活躍推進部会なので、フェスティバルと直接関係はないのですが、部会で進めていた「造園建設業の仕事入門」という冊子を造園フェスティバルに間に合わせてほしいということで、作成しました。また、中学生向けに「造園の仕事」が解るチラシをA4 1枚で作りたいというお話もあり、そのイラストをお送りしました。ということで、造園フェスティバルに直接関わっていませんが、今回座談会に参加させていただくということで、

支部長

- 沖縄県 森根 清昭
鹿嶋市 井上 恒治
宮城県 信一
大分県 是永 宏
熊本県 佐藤 豪夫
長崎県 田中 保男
佐賀県 久保 和男
福岡県 藤田 良司
愛媛県 高須 誠
高知県 植田 敏弘
香川県 古家 正義
徳島県 関 正義
山口県 多々良 樹
島根県 持田 正樹
鳥取県 西谷 勝一
広島県 福島 慶一
岡山県 小林 和義
和歌山県 井内 祥優
奈良県 中島 之勝
兵庫県 坂西 信勝
京都府 佐野 晋一
滋賀県 上田 誠造
福井県 宇田 啓造
三重県 水谷 春海
愛知県 中嶋 和敏
静岡県 内山 晴芳
岐阜県 坂井 隆
石川県 北郷 総一郎
富山県 久郷 慎治
新潟県 磯部 久人
長野県 山崎 信幸
山梨県 依田 康忠
東京都 田丸 敬博
千葉県 鈴木 一彦
埼玉県 渡辺 忠雄
群馬県 山田 博
栃木県 増田 博
茨城県 水庭 博
福島県 諸井 道雄
山形県 今野 久正
秋田県 鈴木 和男
宮城県 古積 吉昇
岩手県 米内 榮
青森県 三浦 利史
北海道 森宮 繁
九州市 木上 清昭

造園の魅力を発信！全国造園フェスティバルの活用

「結果」だけでなく、「成果」「効果」を残せる取り組みを目指そう！

仕事への興味につながっているかは、分かりません。

関根 湘南造園さんの眞壁社長は、Jリーグ「湘南ベルマーレ」の会長も務められていることは業界でもよく知られていますが、コラボとか何か関連はありますか。

桑原 ベルマーレの代表は地域の方々に頼まれて社長が兼務しています。ホームスタ



桑原 宣基氏

深刻な担い手不足への対応を考える

関根 公園づくりから公園管理に仕事内容が変わり、造園の領域がわからなくなってきているくらいとも言えますが、広く造園業と言った部分で、現在、特に気になっていることなどはありますか。

丸山 工事部門がとても疲れてしまっています。失われた10年、新規採用できない時代の30代が少なく、これまでなら管理職になっている50代が現場に追われるようになってしまっており、こうしたことから、担い手の確保は欠かせません。一方で、これまでは現場で強面だった人が指定管理の所について、程よく丸くなり、はまっています。(笑)

新規採用は6(男性):4(女性)で、男女とも指定管理の希望が圧倒的で、施工管理という、残念がったりします。草刈りの話ではないですが、むしろそういう基盤を整えているというやり甲斐がわかるまで、頑張れる体育会系のような辛抱できる人の採用をと思ってしまいます。

細田 指定管理の中で自主事業とフェスティバルでは、目的が違うのではないかと考えていますが、それにも少し関連し、大手企業と中小零細のギャップの大きさがあります。

日造協では、快適な環境などを掲げ、フェスティバルも美しい日本をとっています。中小零細企業は、経営者も従業員もそこまでの意識は持っていないのではないのでしょうか。

当社は、従業員15名、作業員約40名で、3つの指定管理を含んで維持管理3億5千万、その他と合せて売上6億円の会社ですが、日造協が発足当初掲げていたであろう植木屋から造園建設業という課題に、いま現在取り組んでいる最中です。

酒井さんもおられますが、女性の活躍はもとより、経営者は会社として、従業員は社員としての意識を持つことから始める必要があると思っているほどです。

造園はこれまでの技術、職人としての教育は盛んにしていますが、離職率が高い原因にもなっています。給料や福利厚生を整備し、いい意味でサラリーマン化することも大事だと思います。

渡部 私も細田さんと同じ思いです。若い世代が、職業としての造園に魅力とやり甲斐は感じつつ、定着しなかった時期がありました。給与の面も大切だと思いますが、今の若い世代に必要なのは、ワーク・ライフ・バランスだと思います。世代のギャッ

ジウムや練習場などグラウンドの芝生管理は当社で行っています。

Jリーグのグラウンド整備で取得した技術やノウハウを活かし、ベルマーレと協力し公園の指定管理を行っています。その業務の1つとして文科省が取り組んでいる総合型地域スポーツクラブの運営があります。総合型地域スポーツクラブは、地域でスポーツに親しみ、健康づくりやコミュニティづくりに役立てるもので、開成水辺スポーツ公園を中心に、会場は学校や自治会館を使用しています。プログラムは、ベルマーレのスタッフによる「親子サッカー教室」や「走り方教室」「コンディショニング講座」等を開催しています。最近では、公園の芝生広場の「ヨガ教室」が人気で予約がすぐに埋まってしまうほどです。

競技者が対象ではなく公園に来て「健康」になって欲しいと実施していますが、綺麗な芝生の中で運動できると、利用者の方々に喜んでいただけるのが、管理者のモチベーションにもなっています。

プもありますが、社員が働きやすい環境づくりを進めていく事が大切です。会社も変わらなければなりません。

何度も話題に上がっていますが、地方の担い手不足は深刻です。私が生活する酒田市は現在人口10万人ですが、2040年には3割減の7万人と推測されています。行政側もスリム化を進め民間委託を加速させたいようですが、肝心の民間側が人手不足で受け手になれるかです。

人口減少が進むこの先、安定的に人材を確保していくためには、若い世代に造園の魅力や魅力を伝えなければなりません。地元の異業種の経営者の方たちと話をすると、ターゲットとなる世代は高校生では遅いと口を揃えます。当社ではキャリア教育の一環として実施されている中学校の職場体験学習を指定管理の公園で積極的に受け入れています。公園整備・管理作業だけではなく自主事業イベントも絡めて造園の一端に触れる体験の場をつくり魅力を伝えています。すると、この公園で体験した生徒が高校を卒業して造園の専門学校に入り、当社にインターンシップを希望して戻ってきてくれました。就職も当社にと思っていましたが、残念ながら東京の造園会社に就職をしたようです。少しショックを受けましたが業界のためには貢献できたと思えばいいと思います。

桑原 神奈川県では昨年、造園工の労務単価が普通作業員より安いという残念な労務単価調査結果となりました。これからは回答する側の対応として、造園の有資格者及び熟練工の給与を反映させないと「造園工の適正な労務単価」にならないと思います。また、安定していると人気があると思っていた公務員ですら、県の土木職は応募が激減と、建設全般に人気なくなっている現状も目の当たりにし、社会全体として、大切な仕事であることを分かってもらう必要があると感じています。

酒井 経営者の意識というお話がありましたが、部会では現状を知りたいと会員企業にはアンケートをしました。その結果、代表者からの回答は33社だったと記憶しています。この程度の認識でしかないのかと心が折れました。そして、担い手不足が課題と言っておられるが、どのくらいまで真剣に認識しておられるのでしょうか。少しデータの話をします。担い手である新卒の大学生、高校生は約60万人であり、内定率は90%以上です。しかし建設業の就業3



新春座談会の様子

年後の離職率をみると高校卒業生が5割、大学卒業生が3割という結果です。この高い離職率については企業にも責任があると感じます。

また、建設関連だけではなく、近年の傾向として偏差値だけで大学に入り奨学金をもらっても、自分に合わない学科を選択すれば辞めてしまう場合も多く、奨学金の返済だけがついてまわるといった課題もあります。

次に日造協が昨年実施したアンケートの結果をみると、女性の場合、正規雇用28%、非正規雇用が49%です。

とりわけ指定管理業務に非正規が多いのは、事業期間が終わり次の事業期間に必ず事業が受けられる保証はありませんのでやむを得ないと思います。従ってその非正規の立場をうまく活用するという考えもあると思っています。私自身、10年間フリーランスという立場で、時給いくらの仕事をした時期があります。正規とか非正規の括

りではなく、能力に応じた評価をきちんとしていくことが、業界やその会社に定着するかが変わってくると思います。

ちゃんと評価をすること。また、自社の目指すところがどこかを働く人に示していくことは、代表者の責務だと思います。ただ働けず現代の若い方に通用しない。製図ばかりが嫌で現場に出たい女性もいれば、知識のある高齢者や匠もいらっしゃいます。そして仕事を探している諸外国の方もいます。いろいろな人が働ける場所があるのも造園業の魅力です。公園の法制度が一部改正され、待っているだけの時代ではなくなりました。ただし、一社の一人勝ちでは、業界が成り立たなくなります。業界として何ができるか。それを考えるのが日造協であり、漠然としたものではないものを本部、支部で具体化する。その表現の場としてフェスティバルにリンクすることもあるのではと思います。

協会だからできる取り組みに期待



関根 武氏

関根 いろいろな話ができましたが、最後に一言ずついただけますか。

丸山 建設業の中で一番多くの人に喜ばれているのが造園です。誰もが利用できる素敵な場所をつくり、管理しているのが私たちです。そういうことを、フェスティバルをはじめ、いろいろな機会を通じて発信したいと思います。

細田 造園の仕事は、自然もスポーツも夢もあって、素晴らしい仕事です。しかし、1社でできないことがあり、そのための協会だと思っています。協会としての指導力を発揮して、会員の底上げを図り、フェスティバルも本部が指針を出し、支部がそれを柱に議論できるような状況になればいいと思います。

渡部 昨年ハローワークに、造園の施工管理、現場作業員、指定管理の公園管理スタッフの3種類の募集をしたところ公園管理スタッフだけに応募が殺到しました。造園の魅力を理解してもらうのは大変ですが一方では人気があるんです。この人気を造園の将来に活かしていければと思っています。

酒井 日造協に関与して3年。多様な部会があり、みなさん頑張っていると思います。しかし、日造協ニュース読んでいないという状況を感じます。協会でもやっても伝わっていない。

ということは、発進側だけの問題でなく、受け手の問題もあります。

本部と会員はもとより、企業内の風通しをよくし、情報交換してもらいたい。

社員の課題は協会の課題ですから協会の発進が社員全員に伝わるような状況にしていきたいですね。

少なくとも社長だけのための会報や部会の活動ではないことを代表者の方にまず自覚していただきたいです。

林 造園業は、多種多様であることも魅力の1つです。日本庭園、都市公園、街樹、里山、ビオトープ、壁面緑化、指定管理など、こうした一つ一つを地道にアピールしていかないと、造園の仕事はなくなってしまうという危機感を持って取り組むことも必要だと思います。

桑原 直結する労務単価から、法改正に伴う対応まで、できることがたくさんあります。Park-PFIも、設計と私たちの施工、維持管理、運営が一体で取り組み、造園の領域がますます広がってくるのではないのでしょうか。とにかく、元気に前向きに、出せるものを出し合って取り組んでいきたいと思っています。

関根 公害が何とかならないかと造園の道に進み、青空と魚釣ができる川になりました。これからはこうした環境をさらに快適に、何度も人が訪れる場所になるようにしていくことが求められ、海外の日本庭園など、これまでの技術を国外で発揮することも求められています。

全国造園フェスティバルをはじめ、日造協への貴重なご意見もたくさんいただきました。今年は、その課題に取り組み、結果だけでなく、成果・効果として残したいと思っています。

まだまだ、お話をお聞きしたいと思いますが、ぜひ、各社や協会活動の中で、さらに深めていただければと思います。

本日は、有難うございました。